

貸借対照表

2025年3月31日現在

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
資 産 の 部	91,531	負 債 の 部	70,330
流 動 資 産	45,295	流 動 負 債	66,755
現 金 及 び 預 金	53	買 掛 金	41,792
売 掛 金	23,470	短 期 借 入 金	15,700
商 品	5,539	契 約 負 債	7,332
短 期 貸 付 金	15,922	未 払 金	981
そ の 他	311	未 払 法 人 税 等	574
		未 払 費 用	76
固 定 資 産	46,236	預 り 金	61
有 形 固 定 資 産	11,708	賞 与 引 当 金	150
建 物	1,558	役 員 賞 与 引 当 金	21
構 築 物	1,290	固 定 資 産 撤 去 費 用 引 当 金	70
油 槽	1,139		
機 械 及 び 装 置	1,020	固 定 負 債	3,575
車 輜 運 搬 具	12	役 員 退 職 引 当 金	86
工 具 器 具 備 品	181	特 別 修 繕 引 当 金	238
土 地	6,220	長 期 資 産 除 去 債 務	506
建 設 仮 勘 定	287	繰 延 税 金 負 債	485
無 形 固 定 資 産	2,090	長 期 預 り 保 証 金	2,260
借 地 権	168		
ソ フ ト ウ ェ ア	152	純 資 産 の 部	21,200
施 設 利 用 権	4	株 主 資 本	20,661
電 話 加 入 権	6	資 本 金	2,000
建 設 仮 勘 定	1,759	利 益 剰 余 金	18,661
投 資 そ の 他 の 資 産	32,438	利 益 準 備 金	500
投 資 有 価 証 券	1,257	そ の 他 利 益 剰 余 金	18,161
関 係 会 社 株 式	65	固 定 資 産 圧 縮 積 立 金	579
長 期 差 入 保 証 金	29,847	繰 越 利 益 剰 余 金	17,582
前 払 年 金 費 用	1,130		
破 産 更 生 債 権 等	585	評 価 ・ 換 算 差 額 等	539
そ の 他	92	そ の 他 有 価 証 券 評 価 差 額 金	539
長 期 貸 倒 引 当 金	△539		
資 産 合 計	91,531	負 債 ・ 純 資 産 合 計	91,531

損益計算書

2024年 4月 1日から
2025年 3月 31日まで

(単位：百万円)

科 目	金 額	
売上高		381,257
売上原価		371,820
売上総利益		9,437
販売費及び一般管理費		6,385
営業利益		3,052
営業外収益		
受取利息及び配当金	202	
その他の収益	23	225
営業外費用		
支払利息	255	
その他の費用	11	266
経常利益		3,011
特別利益		
固定資産売却益	2	
投資有価証券売却益	87	90
特別損失		
固定資産売却損	1	
固定資産廃棄損	130	
SS廃業等費用	66	
減損損失	1	198
税引前当期純利益		2,902
法人税、住民税及び事業税	966	
法人税等調整額	△ 27	940
当期純利益		1,963

(個別注記表)

I. 重要な会計方針

1. 資産の評価基準および評価方法

(1) 棚卸資産の評価基準および評価方法

総平均法に基づく原価法（収益性の低下による簿価切下げの方法）

(2) 有価証券の評価基準および評価方法

子会社株式および関連会社株式：移動平均法による原価法

その他有価証券：市場価格のない株式等以外のものは決算日の市場価格等に基づく時価法
（評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定）

市場価格のない株式等は移動平均法による原価法

2. 固定資産の減価償却方法

(1) 1998年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備は除く）並びに2016年4月1日以降に取得した建物附属設備および構築物については、定額法を採用している。その他資産については定率法による（リース資産を除く）。

(2) 無形固定資産の減価償却は定額法による（リース資産を除く）。

なお、無形固定資産の内、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を採用している。

3. 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金は、債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上している。

(2) 賞与引当金は従業員の賞与支給に備えるため、支給見積額のうち、当事業年度対応分の金額を計上している。

(3) 役員賞与引当金は役員の賞与支給に備えるため、当事業年度の支給見込額を計上している。

(4) 退職給付引当金は、従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務（簡便法）および年金資産額に基づき計上している。

(5) 役員退職引当金は、役員に対する退職慰労金の支出に充てるため、内規に基づく期末要支給額を計上している。

(6) 特別修繕引当金は、油槽等の開放検査および修理に係る費用について当事業年度末までの見積額を計上している。

(7) 固定資産撤去費用引当金は、固定資産の撤去工事に係る費用について当事業年度末での見積額を計上している。

4. ヘッジ会計の方法

(1) ヘッジ会計の方法は繰延ヘッジ処理によっている。なお、振当処理の要件を満たしている為替予約については振当処理によっている。

(2) ヘッジの手段およびヘッジ対象

① ヘッジの手段・・・商品スワップ

為替予約

② ヘッジの対象・・・石油製品の予定取引

外貨建金銭債権及び外貨建予約取引

(3) ヘッジ方針

デリバティブ取引に関する権限規程および内部規程に基づき、商品価格リスクおよび為替変動リスクを一定の範囲でヘッジしている。

(4) ヘッジの有効性評価の方法

ヘッジ開始時およびその後も継続して相場変動を相殺することを確認することにより判定している。ただし、振当処理によっているものについては、有効性評価を省略している。

5. 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業における履行義務の内容および当該履行義務を充足する通常の時点は以下のとおりである。

当社は、主に石油製品の販売を行っている。

この販売においては、主として製品の支配が顧客に移転したときに、すなわち製品を顧客へ引き渡した時点で、製品の法的所有権、物的占有権、製品の所有に伴う重要なリスクおよび経済価値が移転し顧客から製品の対価を受ける権利を得るため、その時点で収益を認識している。収益は顧客との契約による取引価格に基づき認識し、消費税および割引額を差し引いた純額で表示している。消費税および軽油引取税のように、販売時点において課税され、代理人として回収していると考えられる税額は、売上高に含めず純額で表示している。また、揮発油税のように仕入以前の過程で課税され、売上金額に含まれている税額は売上高に含めている。顧客への販売の便宜のため元売および商社と行っている同業他社との商品の交換取引については、純額で計上している。

II. 表示方法の変更

賃貸料収入原価につきまして、これまで「売上原価」として処理していたが、新たな基幹システムの導入を契機に売上原価を構成するコスト構造を見直し、事業運営の実態をより適切に反映するため、当事業年度より「売上原価」から「販売費及び一般管理費」に表示方法を変更している。

III. 貸借対照表関係

1. 有形固定資産の減価償却累計額	17,851 百万円
2. 関係会社に対する金銭債権債務	
短期金銭債権	31,139 百万円
長期金銭債権	19 百万円
短期金銭債務	11,735 百万円
3. 担保に供している資産および担保に係る債務	
担保に供している資産	
土地	4,208 百万円
建物	257 百万円
構築物	238 百万円

機械及び装置	226 百万円
投資有価証券	943 百万円
計	5,873 百万円
担保に係る債務	
買掛金	40,027 百万円

IV. 損益計算書関係

関係会社との取引高

売上高	91,509 百万円
仕入高	2,000 百万円
営業取引以外の取引高	2,039 百万円

V. 株主資本等変動計算書関係

1. 発行済株式の総数に関する事項

株式の種類	当事業年度 期首の株式数	当事業年度の 増加株式数	当事業年度の 減少株式数	当事業年度末の 株式数
普通株式	87,745 株	—	—	87,745 株

2. 剰余金の配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の 種類	配当の原資	配当金の 総額	一株当たり 配当額	基準日	効力発生日
2023 年 6 月 29 日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	1,027 百万円	11,700 円	2023 年 3 月 31 日	2023 年 6 月 30 日

(2) 基準日が当事業年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌事業年度になるもの

2024 年 6 月 27 日開催の定時株主総会の議案として、次の通り提案する予定である。

決議予定	株式の 種類	配当の原資	配当金の 総額	一株当たり 配当額	基準日	効力発生日
2024 年 6 月 27 日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	942 百万円	10,730 円	2024 年 3 月 31 日	2024 年 6 月 28 日

VI. 金融商品関係

1. 金融商品の状況に関する事項

当社は、資金運用については短期的な預金等に限定している。

営業債権である売掛金に係る顧客の信用リスクは、営業取引規程に従い、各部署が取引相手ごとに期日および残高を管理するとともに、財務状況等の悪化による回収懸念の早期把握や軽減を図っている。

また、投資有価証券は取引先企業との業務に関する株式であり、上場株式については、四半期ごとに時価の把握を行っている。

短期貸付金および短期借入金はグループ資金（短期）の有効利用を目的としたものであり、償還日は決算日後、一年以内である。

2. 金融商品の時価等に関する事項

2024 年 3 月 31 日（当事業年度の決算日）における貸借対照表計上額、時価およびこれらの差額については、次の通りである。

科 目	貸借対照表計上額	時 価	差 額
投資有価証券（その他有価証券）	1,424 百万円	1,424 百万円	—
長期差入保証金	23,857 百万円	21,775 百万円	△2,082 百万円

（注１）投資有価証券の時価は取引所の価格によっている。

（注２）長期差入保証金は、将来キャッシュ・フローをリスクフリーレートに信用リスク等を加味した利率で割り引いた現在価値により時価を算定している。

（注３）「現金及び預金」「売掛金」「短期貸付金」「差入保証金」「買掛金」「短期借入金」については、短期間で決済されるため時価が帳簿価額に近似するものであることから、注記を省略している。

（注４）市場価格のない株式等

科 目	貸借対照表計上額
投資有価証券（非上場株式）	19 百万円

VII. 賃貸等不動産関係

１．賃貸等不動産の状況に関する事項

当社では、東京都その他の地域において、賃貸用サービスステーション設備等（土地を含む。）を有している。

２．賃貸等不動産の時価等に関する事項

貸借対照表計上額	時 価
5,704 百万円	6,174 百万円

（注１）貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額及び減損損失累計額を控除した金額である。

（注２）当事業年度末の時価は、適切に市場価格を反映していると考ええる指標を基に、当社で算定した金額である。

VIII. 税効果会計関係

繰延税金資産および繰延税金負債の発生の主な原因は、繰延税金資産は減価償却費、繰延税金負債は固定資産圧縮積立金、その他有価証券評価差額金である。

IX. リースにより使用する固定資産関係

貸借対照表に計上した固定資産のほか、事務機器、計量機等の一部については、所有権移転外ファイナンス・リース契約により使用している。

X. 関連当事者情報

1. 関連当事者との取引

(単位：百万円)

種類	会社等の名称	事業の内容	議決権等の所有(被所有)割合	関連当事者との関係	取引内容	取引金額	科目	期末残高
親会社	三愛オリ株式会社	石油製品の販売	被所有80%	当社製品の販売・購入 役員の兼任	製品の販売(注1)	89,318	売掛金	9,746
					製品の購入(注1)	1,511	買掛金	790
					資金の貸付(注2)	7,782	短期貸付金	21,218
					利息の受取	4	—	—
					資金の借入(注2)	10,344	短期借入金	10,000
					利息の支払	32	—	—
その他の関係会社の子会社	コスモ石油株式会社	石油製品の精製・販売	—	当社製品の販売・購入	製品の購入(注1)	363,519	買掛金	40,182
					担保提供(注3)	5,873	長期差入保証金(注3)	23,600
					利息の受取	50		

上記金額のうち、取引金額には消費税等が含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれている。

取引条件および取引条件の決定方針等

(注1) 価格その他の取引条件は、市場実勢を勘案して、価格交渉の上で決定している。

(注2) 資金の貸付および借入については、利率は市場金利を勘案して合理的に決定している。

なお、取引金額は期中の平均残高を記載している。

(注3) 担保提供及び差入保証金は、買掛金に対するものである。差入保証金の利率は市場金利を勘案して合理的に決定している。

XI. 1株当たり情報関係

1株当たり純資産額

231,468円18銭

1株当たり当期純利益

24,674円93銭